



いわての川づくりプラン

人と自然との共生を求めて ～いわての川の3つの理念～

いのちを育む私たちの川

～人の命を守り、生活を支える川とともに～

清らかな水が流れる川

生活や社会活動のために必要となる十分な水量と良好な水質を守り、次世代へ引き継いでいくことが大切です。

地域の活性化に貢献する川

地域にふさわしい個性ある川づくりを行い、まちづくりの中に川を位置づける必要があります。

災害に強い川

私たち県民の生命と財産を、災害から守っていかねばなりません。

わが子と楽しむイーハトーブの水辺

～人々が集う文化と歴史の流れを大切に～

遊びやスポーツのできる川

住民同士がふれあい交流する場や、川と遊び自然に親しむための拠点づくりを進めることが重要です。

歴史・文化の香り高い川

川にまつわる歴史や文化を伝承するとともに、これからの川と人との新しい関わりを創り出す必要があります。

教育の場を提供する川

子供たちが川の歴史や役割などについて、遊びながら学べる場をつくる必要があります。

人にやさしい川

子供から老人まで安心して水辺に近づけ、人々にうるおいとやすらぎを与える川としていくことが大切です。

取り組み事例

親水公園、水辺プラザ、河川改修、水と緑の溪流整備、遊水地公園、魚道の整備、多自然川づくり、河川愛護活動やボランティア活動に対する啓発と支援

てんの恵み溢れる水回廊

～自然豊かで生き物と共生する川を誇りに

生き物と共生する川

川とその周辺に生息する全ての生き物のために、生態系の保全について十分配慮していかなければなりません。

原風景に調和した川

人々の心にやすらぎを与える美しい原風景を、日本人の心の「ふるさと」として守り続けていくことが大切です。

森の恵み豊かな川

森林の持つ多様な働きを十分に活かすために、森を守り育てることも必要です。

理念を確かなものに

住民と共通の視点に立って（行政の対応の変革）

住民の視点に立って行政を進め、住民の意見を川づくりに反映させる必要があります。

ともに歩みます（行政と住民の連携）

行政と住民とがパートナーシップを結び、対話や情報交換を行っていかねばなりません。

住民も努力します（住民の参加と協力）

私たち住民も、河川に対する理解と関心を高め、河川の清掃などのボランティア活動に参加することが大切です。

ともに考えます（調査研究の推進）

行政、民間、大学などがともに協力して、調査研究を行い、その結果をモデル河川などで実施していく必要があります。